「たくさんのやさしい目」

石井小学校　二年　上田　依都

わたしは、おとうさんとおかあさんに、「左右をしっかりみて車に気をつけなさい。」とまい日言われます。おとうさんとおかあさんは、おしごとでこう通じこにあった人や、かなしい思いをした家ぞくをたくさんみてきたと言います。その話をきくと、わたしもこう通ルールをまもり、いのちを大せつにしたいと思います。わたしがこう通じこをおこさないために大じだと思うことは、どうろはじぶんだけではなく、車やじてん車が通っていることをいつも考え、どうろをつかう一人としてこう通ルールをまもらなければいけないということです。

わたしの学校では、ちいきごとにとう校はんをつくり、しゅうだんとう校をしています。わたしの家は学校からとおくて、とう校中も車がたくさん通るみちもあるきます。わたしたちがあんしんしてとう校できるように、まいあさちいきの人や、おとうさんおかあさんが見まもってくれています。でも、かえるときは、見まもってくれる大人の人がいないので、すこしふあんな気もちになります。

わたしには、おとうとがいます。おとうとは、おかあさんの言うことをきかず、すぐにはしりだそうとします。にもつをおおくもっているおかあさんのかわりに、わたしもおとうとと手をつなぎ、ちゅういをします。おかあさんは、「あぶないから車の近くではふざけないで。」とこわい目をしています。でもその目は、わたしたちをまもろうとするやさしい目ということをしっています。

わたしも、車やじてん車などのきけんから、小さな子をまもれるやさしい目になりたいです。わたしたちは、まい日たくさんの目にまもられていることにかんしゃしたいと思います。じこでかなしむ人がいなくなるように、しっかりこう通ルールをまもって生かつをしていきたいです。